

日本工芸会陶芸部会 50 周年記念展
未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ

アーティストトーク

+ トークセッション



2



1

2023

11/11 [土]

日時 | 11月11日(土) 13:30 ~ 1時間半程度

会場 | 展示棟展示室内

参加費 | 無料 (ただし本展観覧券の半券が必要です。)

作品を前に自身の作品や作陶について解説いただいた後、
現在どのように、産地や伝統と関わって制作を行っている
かを3人でお話しいたします。

1. 伊勢崎晃一郎 《打文花器》2021年 2. 神崎秀策 《緋彩長方皿「替II」》2020年
3. 古川拓郎 《釉裏白金彩鉢》2021年 ※すべて個人蔵

3



出演者プロフィール



伊勢崎晃一郎

Isezaki Kōichirō

備前

1974年、岡山県備前市に生まれる。東京造形大学彫刻科で木彫を学ぶ。卒業後、父・伊勢崎淳氏に陶芸の基礎を学んだ後、渡米し、アメリカ人陶芸家・ジェフ・シャピロ氏に師事。2005年、日本伝統工芸中国支部展岡山放送賞(10年日本工芸会賞、11年日本工芸会中国支部長賞、13年岡山県知事賞)、2023年、日本陶磁協会賞。展覧会に「The 備前一土と炎から生まれる造形美—」(東京国立近代美術館工芸館 他)など。



神崎秀策

Kanzaki Shūsaku

信楽

1983年、滋賀県甲賀市の信楽焼の窯元に生まれる。2005年、京都府陶工高等技術専門学校成形科修了。2015年、日本伝統工芸近畿展新人奨励賞、2017年、秀明文化基金賞。展覧会に「奇跡の土—信楽焼をめぐる三つの景色」(滋賀県立陶芸の森 陶芸館)など。



古川拓郎

Furukawa Takurō

京都

1979年、京都府京都市に生まれる。父・古川利男氏に師事。京都精華大学美術学部造形学科陶芸コース卒業後、専門機関で研鑽を積む。2008年、日本伝統工芸近畿展松下幸之助記念賞、2012年日本伝統工芸展日本工芸会奨励賞。展覧会に「京都府美術工芸新鋭展 京都美術・工芸ビエンナーレ 2012 (招待部門)」(京都文化博物館)など。

土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo